1965
12月号
No.145
編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

12月の人口と世帯
人口 7,562(－1)
男 3,745(－8)
女 3,817(＋7)
世帯数 1236(0)

農業構造改善事業
第三年次計画実施に入る

わが村の農業構造改善事業は第三年目になり、ヤマバをむかえることになりました。構造改善に対する世評にはなかなかきびしいものがありますが、県内で大きく問題になつた左地区でも、実施する農業者の熱意と努力で多くの困難を克服しながら進行を続けています。

わが村の場合、用地を国有林に求め、その解放を前提としているだけに、困難性も多かつたわけですが、営林当局の理解と関係者の努力で、計画がつぎつぎと実施にうつされてきたことはよろこばしい次第です。

四十年度予定地も境界の画定、地上立木の伐採、搬出など時間的なおくれはありましたが、一応終つて工事の着工を見ることができました。

ただ今大型のブルドーザーが現地に入つて、能率的に作業を進めており、土地改良区のブルも活発に活動しています。

◉畜産センター

村営で家畜管理所構内に建築中です。工事は渡辺産業株式会社が請負い木造二階建二一〇平方メートル、附属施設を合せて事業費五〇〇万円。

本村畜産の総合的指導、相談あつせん等の多目的畜産サービス機関として村が運営する。この機会に家畜管理所建物も改造補修され、たばこ収納施設としても利用され易くなります。

たばこの荷置場、荷造り場など増改築されて今年の収納から利用されます。

◉青生野和牛協業

解放の決定した国有林を開墾して飼料畑五ヘクタール、草地一四ヘクタールを造成する。

牛舎一、飼料庫一、サイロ五を作る。事業費五三一万円これに大面積の林間放牧地を共有林として国から貸付され次年度に残りの工事を終つて運営を開始することになります。

この工事は県機械開発公社が担当します。

◉青生野牧野
大横場牧野

青生野牧野組合は草地造成一〇ヘクタールと給水給塩施設を作る。事業費一一〇万円。大横場牧野は五ヘクタールの草地造成を行う。事業費は五一万円。

◉青生野養蚕協業

昨年から事業を継続中で今年は解放された国有林一八ヘクタールを開墾して集団桑園を作り、一キロメートルあまりの農道をつける。

木村知事が親しく現地を視察して激励したところで、完成後は日本一の養蚕協業になります。

今年度の事業費は七六五万円。工事は藤田建設工業が請負い現在盛んに作業中です。

◉鍬木田養蚕協業

国有林に関係なく組合員の所有地を持寄つて作られる共同桑園で三・五ヘクタール。飼育室二、上簇室一、動力防除機一が整備され、事業費は二一二万四千円。

◉世々麦養蚕協業

五ヘクタールの桑園造成を機械開発公社に委託して行う事業費は一二一万円。



低開発、低所得の阿武隈山系を開発せずに県勢の振興はあり得ないと11月16日全地域29市町村が集つて福島県自治会館で開発促進協議会を発足させました。

当日会館入口に立てられた大看板。



阿武隈山系は県土の4分の1、凶作にさいなまれ、交通難にはばまれて、これまで陽の当らなかつたこの地域にこそ、県政の恵みは豊かであるべきだ……発起人代表の石田村長は、こうあいさつしました。

民生委員の委嘱

十二月一日付で、次の方々が民生委員（児童）委員として厚生大臣から委嘱されました。

赤坂西野…白坂勝弥（総務）、吉田稔、西山…関根銀治、我妻与吉、赤坂中野…矢吹清敏、円井一成、石田末子、赤坂東野…鈴木作兵衛、鈴木ミチ、藤田富久代富田…松本工、青戸テル、渡瀬…小松七郎、藤田伝、青生野…石井春吉、鈴木清司。

産業開発の
青年隊員募集

一ヶ年の訓練期間があり、土木、建設機械その他建設技能を修得し、産業開発に挺身しようとする青年を養成するため、県は次により隊員を募集しています。募集〆切は四十一年二月末日、応募資格は満十八才以上二十五才未満の未婚男子、中学卒以上の学力を有し心身強健の者、詳細は役場産業課へ。

新年祝賀会

明年一月一日に例年どおり行なわれます。既に回らん板で御承知のことと思いますが見おとされた方や、気づかれなかつた方で参加を希望される方は、十二月二十八日までに役場庶務課か公民館事務局に直接申しこんで下さい。

当日は参加者名簿で名刺交換をかね、各界代表の新年のあいさつがあつて祝賀会に入ります。会費は百円ですのでどなたも気ガルに参加して下さい。

林業相談日
設けます

林業の近代化を進め、林業の振興を図るには、個々の農林家の経営を改善しなければならないので、二月より毎月一日を相談日として、午前十時より午後三時まで（一日か休日、祝祭日の場合は順延）青年研修所で、林業経営、造林育苗、林業金融、特殊林産（しいたけ、栗等）その他の相談に応ずることになりました。相談員は棚倉林業事務所と森林組合の係員です。



近代酪農経営のモデル

滝の下　蛭田武彦君



農業後継者の問題がやかましくさわがれている折柄、村内に県下でもめずらしい立派な酪農経営をやつている青年があらわれ、郡内外から数多くの視察者をよんでいます。

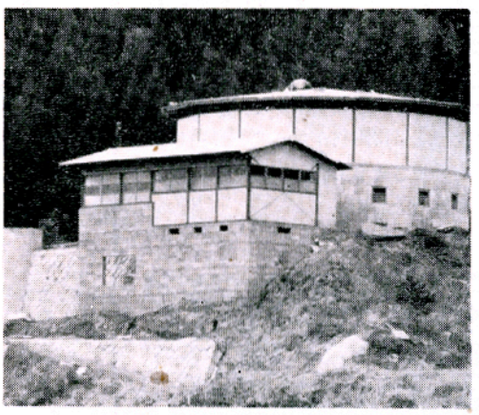
それは赤坂東野字滝の下蛭田京之助さんの孫の蛭田武彦君（二十三歳）で、このほど写真のような見事な畜舎や二ヘクタール近い牧野を完成して落成祝を行い、近隣の人たち初め、石田村長、県事務所長代理、郡酪参事等の心からなる祝福と激励をうけました。

この施設は傾斜のある雑木林を機械開こんによつて広大な草地を作り、草地のふもとに、県内でもめずらしい円型の畜舎が建てられ、畜舎を囲んでサイロが二基、堆肥舎、車庫、管理室等が配置されています。畜舎は一階が石造で内部は乳牛が畜舎の中心に頭を向けスタンチヨンを利用して九頭がはいりミルカーも取付けられています。

二階は鉄骨ビニール構造で乾草の貯蔵室になつており、各施設は傾斜地を巧みに利用して合理的に配置されています。所要経費は約百三十万円で自己出資の外は県の農業後継者育成資金を利用しました。

蛭田君は中卒後農家の後継者を志し、村の青年研修所で産業青年研修をうけ、その間日本酪農講習所の通信教育を修了した努力家です。

※　※



傾斜地を利用した円形畜舎

納税だより

村税完納運動

期間十二月一日より二十五日まで

村税を完納して住みよい村をつくりましよう。

十二月納期である村県民税第三期分と保険税第五期分の納期内納付を推進すると共に、未納者に対しては早期完納をお願いし、みんなの盛上る力で未納村税を一掃し、前年に引続いて全村完全納税の成績をうち建てることを目的に、村税完納運動を展開しております。

村の財政は村税の完納によつて充実し、明るく住みよい村作りが円滑に行われることになります。

いろいろと御都合もあることでしようが、この運動に協力され、未納の村税はこの際是非完納されますようお願い致します。

なお、村県民税の第三期分は従来は一月納期でありましたが、今年から十二月納期に条例が改正されました。従つて今月納期の村県民税第三期分と保険税第五期分で今年の全村税の納期が終ります。この点誤りないよう納期内完納に御協力下さい。

全国消防大会に出席して

去る十一月十五日、日本武道館に於て天皇陛下御親臨のもと、厳しく且つ盛大に行われた。（団長三〇〇人其の他合せて一二、〇〇〇人）

先ず日消副会長の開会のことば次に青木日消会長のあいさつ、終つて殉職消防団員に対する黙禱、次に青木日消会長が議長となり各県の意見発表に入つた。

一、殉職消防団員に対する年金制度の確立強化（東京都提出）。

二、特異火災に対する防災制度の確立と保安対策について（横浜市提出）

三、消防施設に対する国庫補助の枠の増大について（大阪提出）

次に全員起立、消防音楽隊の君が代吹奏の裡に陛下御親臨、青木日消会長の消防全般に対する現況御報告、次いで陛下の有難い御言葉を奉戴して万歳を三唱し、陛下を御送りした。来賓の祝辞に入り先ず、佐藤総理、衆参院議長（衆院議長は入院のため代理）自治大臣、全国知事会会長、全国市長会会長、又町村会会長の祝辞があり、日消副会長の閉会のことばを以つて全日程を終つた。

ついで第二部の行事として故大野伴睦氏（前日消会長）の追悼の式があり、アトラクションがあつて全員散会した。

此の大会を通じて消防団の任務の重大なる事を再認識すると共に、特に消防団員の教養訓練の重要さを身を以つて体験した次第である。

消防団長　円井彦兵衛

村政の歩み

阿武隈開発運動の展開

村長　石田卯子八

本村から口火を切つた阿武隈開発の運動は、初め村議会側から郡内各町村に提唱されそれが全部の世論として盛り上り、九月九日青生野小中学校へき地集会室における阿武隈開発期成同盟会の設立となりました。

この会の目ざすところは直接には阿武隅山系南部地域の経済や文化の総合開発にあるが、先づもつてこの地域を縦貫する道路を作ることを先決とすべき点で意見が一致していました。

それで全郡の町村長と議員で、これを強く県に陳情したのですが、県は既に問題の重要性を認めており、特にこの地域の農業振興に関しては、国立東北農業試験場に調査を委託しているのであります。

ここで阿武隈南部の開発は阿武隈全域の開発の中で考えるべき時点にあることを察知し、本郡が主導権をとつて全域の市町村によびかけることにしたわけです。

これに応じて十一月六日、県の自治会館で開いた阿武隈山系開発促進協議会の設立総会に参加した市町村は、伊達安達、田村、石川、東白川、石城、双葉、相馬の八郡、九地方町村会の二九市町村に及び、ここにオール阿武隈の市町村を結集した促進団体が設立されました。

会長に衆議院議員湊徹郎氏を選び、当日直ちに第一次の陳情を行いました。

この時県は、この広域且つ広汎にわたる問題の統一された窓口を設定されたいという要望に対し、企画開発部の企画課を充てることを明らかにしました。

更に十一月三十日、自治会館に役員会を開き、顧問参与の推せん、事務局の構成などを行いましたが、席上知事は上京中で、佐久間副知事、総務、農政、農地林務、企画開発の各部長と関係課長が列席し、赤井農構課長などは「これで商労部長でも来れば庁議になりますなあ」というわけで、県の力の入れ方も容易でないことがわかりました。

われわれの方からは、阿武隈山系の開発が大きいからといつて尻込みせず、これなくして県勢の発展は望めないのであるから、まともな姿勢で取りくまれたいこと。先づ総合開発の調査室を設けられたいこと。当面の課題は縦貫道路と広域農畜産業の開発にあることなどを要望し、県側からは、調査室を庁内におくか出先におくか、その規模などについて慎重に検討すると述べられました。

こうして阿武隈山系の開発は、全県的な重要課題として県政の面に大きく浮んできたのであります。

★今月の納税★

村県民税第3期分
保険税第5期分　最終納期です

今年から村県民税第3期分の納期は12月になりました。

納期限は12月25日です

納期内完納に御協力下さい

督促されることは誰でもいやなものですから未納の村税は今すぐに完納しましよう。

議会だより

第十一回鮫川村議会臨時会

去る、十一月十七日、第十一回議会臨時会が招集されました。このたびの臨時会は主として、給食センター建設に伴う予算措置のため招集されたものであり、その結果は次のとおりであります。

(1)会議録署名議員の指名（十四番中川西・十五番金沢省三）

(2)会期の決定（一日間）

(3)報告事項

イ例月出納検査結果

ロ一般村政報告

村長より十月以降の建設事業の状況や消防団員の退職報償制度の適用等についての報告

(4)議案第四十五号　昭和四十年度鮫川村一般会計補正予算（原案可決）今回の補正は、学校給食センター建設のための補正が主なものであります。給食センターの工事請負費の予算は今回九二四千円補正されて、総額三、一四〇千円となり、その他備品購入費を併せて八、一七一円の予算内容で事業が執行されることになりました。その他の補正は農林水産業費や消防費等の補正で予算総額現計は一億六百四拾二万九千円となりました。

(5)議案第四十六号　鮫川村国民健康保険条例の一部を改正する条例。（原案可決）

国保七割給付実現

この条例改正は、**四十一年一月一日**から、世帯主ばかりでなく家族全員に対し、医者にかゝつた場合その費用の七割を国保から支払うことになりました。

(6)**決議案第一号**　国有林野の売り払い等に関する特別立法の早期制定に関する要望（原案可決）

これは、中川西金之助、関根信政両議員から提案された決議案でその内容は、本村のように国有林野が五五・一%におよび、国有林野の活用なくしては、本村産業経済の発展も農業の振興も期しがたいので、政府や国会が先きに決定した国有林解放に関する「要綱」にもとずき速やかに特別立法案を国会に上程することを要望する決議案であり、全会一致で決議して、内閣総理大臣外それぞれの関係機関に決議書を送付いたしました。

議会事務局

地方自治の広場　(2)

＝議会の使命＝

民主政治は議会政治であるといってもよいでありましょう、即ち住民の意思を代表する者で構成された議会がすべて、団体の意思を決めるという制度がとられております。

もちろん、地方自治法第九十四条に明記されているように、住民全部が会合し、討議して賛否を決定するのが、民主政治の理想でありましょうが、少なくとも、五十人や百人ぐらいならともかく、数千人、数万人という町村団体になれば、不可能に近いことであり現実にできないことなので、ここに代議制度が生れ、住民から選出された一定の代表者による議会が、住民の総意を代つて決めるということになつたわけで、国や地方自治体にしても、この議会方式を採用しているわけです。それだけに議員の職責又は議会の活動は重大であり、公正でなければならないわけです。

議員の一言一句は、とりもなおさず、住民の意見であり住民の気持であり、表決において賛成の一票を投じることは住民の気持が、その議案に賛成であるという裏付けがなければなりません。又議員も全体の奉仕者で一部の奉仕者でないのでありますから、一部の利益のために走ることなく、大多数の住民の気持に背くことのないよう心掛けねばならないことになつています。ということは、多くの住民が反対であることを、議会において決定することは、議会の本分を忘れ、民生政治のあり方を誤るものだということになります。つまり議会は、何よりも公正に、まじめに、責任ある活動をしなければならない義務と使命があるということであります。

つまり、そのためには、つねに、いろいろなことに着目し調査、研究をし、住民との接触を密にして、住民福祉の向上に努め、且つ地方自治体の発展を図らねばならないということになります。

今や、地方自治は確立され悪い因習は逐次排除されつゝあります。

近代的社会においては、時代の流れに取り残されてゆく人々によつては、新しい自治体は生れてこないのであります。これは厳然とした現実であることを充分に考え、悔なき明日への希望をもつため、又地方自治の伸展のため心してておかなくてはならないことでありましょう。

議会事務局

新鮫川風土記　③

鮫川の湯

郡山から平までの磐越東線沿線、また水戸までの水郡線沿線には数多い温泉が散在、これを私は阿武隈温泉郷と呼んでいる。いずれも著名な温泉ほど規模が大きくないが、かえつてそこに都会化しない良さがあり、訪れる人が多くなつているのである。

なかでも鮫川の温泉は非常に多く、静かな山ふところに抱かれて、ほのぼのと湯けむりをあげている。これらのいで湯は古くから近郷の人たちに親しまれ、愛されてきた。いわゆる山間のいで湯で、主として湯治客に利用されるが近年県南開発と結んでのコースで訪れる人が多くなつた。それに、本村の農業の協業化を視察に来る団体客などもよく利用するようになつた。

胃腸病、リウマチス、婦人病などによく、豊富な湯、大きな湯舟、静かな場所は鮫川温泉郷の特徴でもある。

なみなみのお湯にひたつていると、風が色々な物音を立てて過ぎて行き、小鳥のさいずりが四季折々に美しい声を聞かせてくれるのである。

東野では湯の田があり、いわゆる「上の湯」「下の湯」がそれで、中野では」道少田の湯」、西山では「戸倉の湯」、西野では「折戸の湯」などそのほかありあまるほどのお湯が出ている所が数ケ所あり、広畑地内、湯川地内などがそれで、ほとんど全村に分布しているのがみられる。



これらはいずれも鉱泉で温度が少し低いので、わかさないと冬場には入れないので一部わかし湯としているが、このくらいの温度の温泉地はいくらでもあり、本村ほどの湯量はない。考えかたによつてはこの低温度に魅力があるともいわれる。

鮫川の清流をはさんで、下の湯、上の湯があり、ここでは自炊も自由に出来るので、農閑期を利用しての農家のおじいさん、おばあさんたちで満員となり、世間話に花を咲かせ、のんびりとした湯治を行うのも、鮫川の湯ならではの味であろうか。中野の道少田の湯は、本村中心街だけに交通の便が良いので、色々に利用される。戸倉の湯は最近売り出したが、釣などの宿にもつてこいである。折戸の湯のPRのたりないのがさびしい。

私の知つている人が、鮫川下流よりのぼり、戸倉の湯に泊り、次に道少田の湯に泊り下の湯、上の湯と、次々に一日一つの温泉旅行としやれこんだものをやり、ある雑誌に書いたことがあつたが、誰れもがそうしたいと思わずにはいられない良いコースなのである。また日本画家で、東京にいる酒井白澄画伯に逢うたびによく鮫川の湯のことを話に出してくれるのはうれしい。

中井　恒雄

楽しみつつ　役だたせつつ

秋でした。美しい秋の一日でした。私ども会員五十六名が一年間の労力の実りをレクリエーションと研修を兼ね、袋田婦人会を訪ね、温泉にひたつてまいりました。

今までだつたなら温泉ひたりで終つたものでしたが、本年は一歩進めてはと言う校長先生の御助言などありまして私たち執行部は、計画案をこまかに練り先方の会を訪れたのでした。

袋田婦人会の幹部の方々及び小学校長先生まで十数名お出迎え下さいまして、「いでゆセンター」で約一時間、婦人会の現在と将来について意見を交換したのでした。

百聞一見にしかず、とはよく申しましたもので、あちらの婦人会の予算のうち、町貧担が三万円もあること、婦人会館建設までの意欲あることなどは羨ましい限りでありましたが、年年、会員の減つていくこと、会員の集まりの時期と方法に工夫の要ることなどで、同じ苦しみのあることを知り、お互に努力しましようと誓い合つてお別れいたしました。

私は今度の研修旅行を通じて責任者の一人として痛感いたしましたことは「計画はこまかにたてられねばならない」「上をむいて歩こう」ということの二点でここから自分なりに反省して「やつてよかつた」と思うことでありました。

適当に楽しみ、温泉にひたりながら、あの夏の日の下刈りの話や、帰りの車中の自慢の歌にしばらく、女として、人間としての姿にたちかえることが出来たのを何よりの収穫と思います。

最後にこれまでにいたるまで御協力下さいました関係各位に心よりお礼申させていただきます。

西野婦人会長　須藤美代子

皆さんが村内のたばこ小売店から買つた「たばこ」代金の一部は、たばこ消費税として村の収入となります。

年末年始に当りたばこは村内の小売店で買うようにお願いします。

告知版

便利になる 農村集団自動電話

電話の少ない農山村地区に二百戸を一つの集団として電話を設置しようとする、電々公社の事業はまとまった地区から実施され既にお隣りの石川町山橋地区は昨年設置され、割安の費用で便利な電話が入ったので喜ばれています。

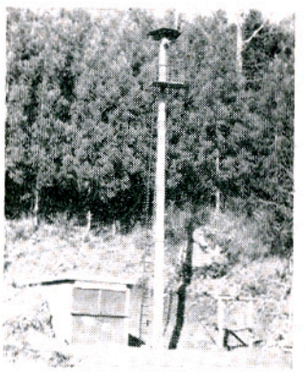
本村でも鮫川郵便局が春から渡瀬・富田地区に呼びかけていたが、地元区長や議員さん方の協力で二百三戸の申込を受けたので、設置同盟会（会長、渡瀬区長）を設け早期導入の運動をつづけています。

つづいて西野・西山地区にも同様の機運がおこったので部落ごとに局側と区代表者が出席して懇談会を開き、申込をとりまとめていますが（十二月二十日現在百八十戸）、まとまれば前の地区といつしよに設置されるみとおしです。

この工事は一ヶ所に八千万円の工事費が投ぜられますので、本村で実現すれば一億六千万円になり県下初のケースとのことで、これができれば現在の百三十六台が五百四十台となり二戸に一戸の割合となるわけです。

福島電電公社では地元の人たちの熱意ある協力があれば四十一年度中に是非実現させたいとの話です。

□　□



赤坂西野字塩倉地内のポンプ置場と火の見兼ホース乾燥塔で、本年8月可搬式動力ポンプ配置に伴つて、地元では総工費15万7千円（うち村補助2万円）を投じて完成した。

成人式参加の申込は早目に

明年一月十五日に行なわれる成人式の在村該当者は十一月号で、お知らせしたとおりですが、もれている方や、村外居住者で郷里で成人式を行ないたい方は早目に公民館事務局（鈴木一）まで申しこんで下さい。

当日の申込は受付できないので御諒承願います。

子どもたちを慰問

十月に県の「ひかり号」に同乗し塚本部落の児童遊園地（館長星弥義）を訪れた福島県立保母学園の生徒管田修子さんらは、そのときの印象が忘れられず同僚五名といつしよに自費で十一月の末に再び同部落を訪れました。

歌とフォークダンス、映画会そして翌日のハイキングなど子どもたちと楽しい二日間を過しましたが、一日中ハシヤギまわつての指導ぶりに、いつしよにフォークダンスを楽しんだお母さん方も専門とはいえ驚いてしまいました。

すつかり馴じみになつた子どものなかには別れのあいさつに泣きだす子もありました。

（写真　お母さんもいつしよになつてフォークダンスを楽しむ）



かまどの火　斗暁

父祖よりの脉うちつゞく冬の杉。
父祖の地位倒るゝ杉を売りつくす。
電気器具あれど農家のすきま風。
かまどの火凝視めて母の腰曲る。

年末の郵便にご協力を!!



鮫川郵便局 提供

ことしもいよいよあわただしい、しわすを迎え、郵便局では年末年始の郵便業務を円滑に取り運ふため、輸送・要員施設などのあらゆる面に、万全を期しておりますが、年末には、なにぶんにも、郵便物がいちじるしく増え、平常日の三倍から八倍の取り扱いになりますので　次のことがらについて、みなさんのご協力をお願いいたします。

1「あて名は完全に正確に」

特に、こどもさんあてのときは世帯主のなまえを肩書きして下さい。

2「新住居表示制度実施地域は」

実施地域へのあて名は「○○市○○町○丁目○○番○号」とはつきり書いて下さい。

略記（三ノ一ノ一三）はしないで「丁目、番、号」の文字を必ず書いて下さい。

3包装はしつかりしてください。

包装がかなりしつかりしたつもりでも、途中でこわれたり、中身がめけたり、湿気がしみ出て、他の郵便物を汚したりするので、内容品を十分保護できるよう厳重に包装しヒモをかけられるものは十文字またはキ文字にヒモをかけて、荷札は二枚つけて下さい。

簡易保険も年末のしめくくりを!!

十二月は家庭経済にとつて一年間のしめくくりをする大切な月です。

この機会に、簡易保険のほうも保険料払い込みのしめくくりをしたいものです。

年末を機会にお手もとの領収帳をいま一度おあらためください。

もし月おくれがあれば、ボーナス等で月おくれをとりもどし、さつぱりした気分で正月を迎えるようにしたいものです。

「ジングルベル」の音と共に間もなく今年も暮れようとしております。静かにくれ行くこの一年間を、ふりかえり乍ら、くる年に、期待をかけてがんばりたいものです。

いろいろとお世話になりました。

ごきげんよう

さようなら。

おめでた

十一月

酒垂　石井　隆二（隆夫）
内ヶ竜　蛭田　章子（四一）
青生野　岡部きみよ（勝正）
藪　星　明美（一弥）
余所内　関根　順子（英男）
新宿　穂積　浩次（義富）
押目　北条　則夫（恵三）

おくやみ

十一月

越虫　遠藤　誠（盛也）
内ヶ竜　近藤祐美子（清次）
押野　緑川　教子（勝美）
戸草　諸橋　光美（金作）
茅　白坂　智子（重雄）
大石草　鈴木真由美（孝雄）

越虫　芳賀　スエ79（ワカノ）
内ヶ竜　味原　ノブ52（伊助）

ことばのきまり ちょっと考えて

なんだかおかしなことばが次から次へとはやつている。「あーら、ちーとも知らなかつた」が終ると「まとめてめんどうみよう」が生れる。そんなことをたしなめようものなら「気にしない、気にしない」とやりかえされ、さいごには「シエー」と身ぶりおもしろおかしくやられる。子どもがテレビを通じおぼえることばなどはそのスピーデーなことにおどろかされ、私どもの国語の教育はまさにあがつたりである。しかし、これも一つの流行と思えば、じつと根を深くほりさげて、よいことばはよいことばとしつかり教えなければならない。もつと考えてみたいことは毎日の生活の中で、一つ一つ解決していくことしかあるまいと思う。「ぼうや○○へいく道はどつちですか?」と聞くとこらの子どもは「あつち」でポツンと切る。まことに愛想のない無表情のままポツと答える。もう少しなんとかならないかと考えるがそれ以外の技術はないらしい。大人なら、時と場合を考えて適当にこなす能力は生れても子どもにはそれが出来ない。いや、むしろ、大人でさえ人を見てことばを使い分ける力はむずかしい。だとすると「ただ今」「ありがとう」「ごくろうだつたネ」というみじかいことばのつみかさねが、何回もくりかえされてよいし、家庭では「今、何といつたの」とか「となりのおばさんは何と返事したの?」とかのくりかえしにたよるしかなくなる。そうすることによつて、少しでも明るい表情で、ハツキリしたことばで話をすることは世の中を明るくするものであることを教えたい。ちよつと教えてしやべることが大切なのだが、相かわらず「シエー」がはやる。困つたことだ。でも、私は、ちよつと考えて話すことを訴えてみたいのだ。

鮫川村立西野小学校
古川　一郎

あとがき

毎年のことではあるが、当然やらなければならないことが分つていながら年末にもちこし、あわてて夜おそくまで仕事をしなければならないことになるケースが多いようだが編集子も十二月号、新年号と追いまくられ、なんとか合併号でかんべんして頂こうとしたが、村長の厳命のまえに夜を徹しての編集となりましたので粗雑の点は御容赦下さい。

（鈴木、緑川、関根）